

## 平成12年国勢調査結果概要 (昼間人口、通勤・通学人口等)

平成12年10月1日現在で実施された「平成12年国勢調査」の昼間人口、通勤・通学人口等の集計結果の福岡県分が、平成14年3月29日総務省統計局より公表されましたので、福岡市関係分の概要をお知らせします。

### 《結果の概要》

- ・昼間人口は1,531,174人で、前回比3.5%増加。  
通勤・通学による本市への流入超過人口は194,512人。前回比4,169人減。
- ・博多区、中央区の昼間人口は夜間人口の1.8倍を超える。  
昼間人口の最多は博多区で359,392人、中央区の281,171人が続く。
- ・男女、年齢階級のすべてで、昼間人口が夜間人口を上回る。  
流入超過人口は、男が女の1.8倍多い。  
昼夜間人口比率が高いのは、男は40～49歳、女は15～19歳。
- ・13大都市の中で、本市の昼間人口は8番目、増加数・増加率は横浜市に次いで第2位。
- ・15歳以上の本市における就業・通学者のうち、市外からが27.8%を占める。  
春日市からの通勤・通学者が26,379人で最も多い。
- ・15歳以上の本市に常住している就業・通学者のうち、市外への通勤・通学者は9.3%。大野城市への通勤・通学者が5,832人で最も多い。
- ・通勤・通学者の交通手段では、自転車だけの利用者が10年前より約5割増加。

### 《集計項目》

- ・昼間人口、通勤・通学人口、利用交通手段など

### 今後の集計公表予定

- ・町丁字等小地域の人口・世帯 平成14年7月
- ・職業別構成、母子世帯の状況 平成15年3月

### 今後の刊行予定

- ・国勢調査結果[確定数Ⅱ]  
町丁字等小地域の人口・世帯、昼間人口 平成14年8月
- ・福岡市のメッシュ統計  
地域メッシュによる人口、世帯 平成14年8月
- ・国勢調査結果[確定数Ⅲ]  
職業別構成、母子世帯 平成15年3月

## 1. 昼間人口

### (1) 概要

昼間人口は、1,531,174人、前回より3.5%増

平成12年10月1日現在の本市の昼間人口は、1,531,174人で、前回(平成7年)に比べ、52,088人、3.5%増加している。

一方、夜間人口(総人口から年齢不詳の人口を除く)は、1,336,662人で、前回に比べ4.4%増。通勤・通学による本市への流入人口は、265,156人、一方、本市からの流出人口は70,644人で、差し引き194,512人の流入超過となっており、前回に比べ、流入超過人口は4,169人、2.1%減少している。昼夜間人口比率(夜間人口100人当たりの昼間人口の割合)は、114.6で、前回より0.9ポイント低下。

昭和55年以降の推移をみると、通勤・通学による流入超過人口は増加を続けてきたが、今回は前回に比べ減少した。

図1 昼間人口及び夜間人口の推移

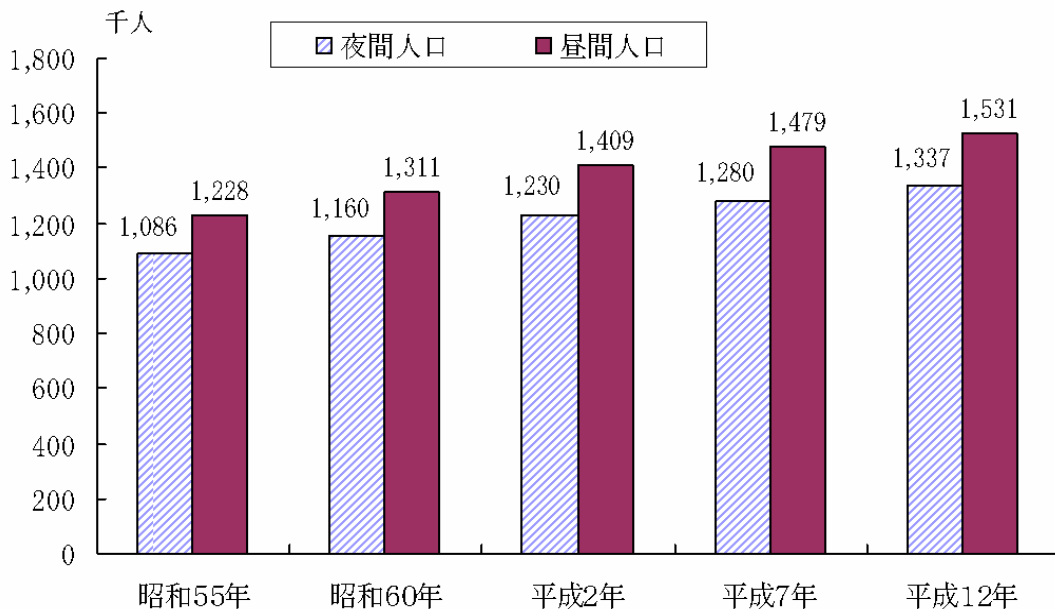


表1 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率等の推移

年次	常住地による人口 (夜間人口)		流入人口	流出人口	流入超過 人口	従業地・通学地による 人口 (昼間人口)		昼夜間 人口比率 (%)
	実数	増加率(%)				実数	増加率(%)	
昭和55年	1,086,269	8.5	178,745	36,562	142,183	1,228,452	8.5	113.1
昭和60年	1,159,521	6.7	196,662	44,988	151,674	1,311,195	6.7	113.1
平成 2年	1,229,865	6.1	236,602	57,125	179,477	1,409,342	7.5	114.6
平成 7年	1,280,405	4.1	266,527	67,846	198,681	1,479,086	4.9	115.5
平成12年	1,336,662	4.4	265,156	70,644	194,512	1,531,174	3.5	114.6

注) 常住地による人口(夜間人口)、従業地・通学地による人口(昼間人口)には、年齢不詳の人口を含まない。

(2) 区別

博多区、中央区の昼間人口は、夜間人口の1.8倍超える

昼間人口を区別にみると、博多区の359,392人をトップに、中央区281,171人と続き、以下、東区、南区、早良区、西区、城南区の順となっている。前回と比べ、中央区を除く6区で昼間人口は増加したが、中央区だけは334人、0.1%減少している。

昼夜間人口比率では、博多区と中央区が180を超えている。他の5区はいずれも100以下で流出超過となっており、夜間人口が昼間人口より少なくなっている。前回と比べ、東区、城南区、早良区、西区の4区では昼夜間人口比率が上昇しているが、博多区、中央区、南区の3区は比率が低下した。

流入超過の博多区、中央区の2区とも、前回に比べ流入超過人口が減少。博多区は5,061人減(2.8%減)、中央区は11,932人減(8.4%減)となっており、前回に比べ都心部への流入人口は減少した。

図2 区別昼間人口及び夜間人口

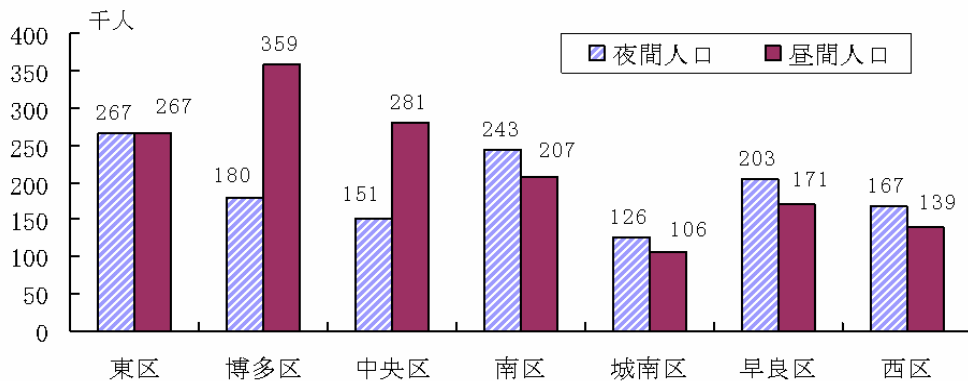


表2 区別昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

年次区別	常住地による人口(夜間人口)		流入人口	流出人口	流入超過人口	従業地・通学地による人口(昼間人口)		昼夜間人口比率(%)
	実数	構成比(%)				実数	構成比(%)	
平成12年								
全市	1,336,662	100.0	265,156	70,644	194,512	1,531,174	100.0	114.6
東区	267,003	20.0	67,742	67,938	-196	266,807	17.4	99.9
博多区	180,454	13.5	214,818	35,880	178,938	359,392	23.5	199.2
中央区	150,871	11.3	167,352	37,052	130,300	281,171	18.4	186.4
南区	242,930	18.2	41,449	77,343	-35,894	207,036	13.5	85.2
城南区	125,743	9.4	24,615	44,283	-19,668	106,075	6.9	84.4
早良区	203,048	15.2	34,383	66,230	-31,847	171,201	11.2	84.3
西区	166,613	12.5	25,063	52,184	-27,121	139,492	9.1	83.7
平成7年								
全市	1,280,405	100.0	266,527	67,846	198,681	1,479,086	100.0	115.5
東区	260,596	20.4	65,988	70,444	-4,456	256,140	17.3	98.3
博多区	168,159	13.1	220,170	36,171	183,999	352,158	23.8	209.4
中央区	139,273	10.9	178,474	36,242	142,232	281,505	19.0	202.1
南区	237,377	18.5	45,680	80,232	-34,552	202,825	13.7	85.4
城南区	124,121	9.7	24,966	46,633	-21,667	102,454	6.9	82.5
早良区	196,393	15.3	29,485	69,019	-39,534	156,859	10.6	79.9
西区	154,486	12.1	23,525	50,866	-27,341	127,145	8.6	82.3

注1) 常住地による人口(夜間人口)、従業地・通学地による人口(昼間人口)には、年齢不詳の人口を含まない。

注2) 各区の流入・流出人口には、本市の他区との流入、流出を含む。

注3) 全市の流入・流出人口には、本市の各区間の流入、流出は含まない。

### (3) 年齢、男女別

昼夜間人口比率が高い年齢は、男は40～49歳、女は15～19歳

昼間人口を年齢(5歳階級)、男女別にみると、すべての年齢階級で男女とも夜間人口を上回っている。

男女別では、夜間人口は女が男より47,542人多いのに対し、昼間人口は男が7,920人上回っており、流入超過人口は、男が124,987人で、女の69,525人の約1.8倍となっている。昼夜間人口比率は男が119.4、女が110.0。

男では、40～59歳で昼夜間人口比率が130を超えるなど、15歳～59歳の幅広い年齢階級でいずれも119以上となっている。女では、15～24歳で120を超えているが、年齢が高くなるに伴っておおむね低下している。

流入超過人口は、男では50～54歳が15,728人、女では20～24歳が15,411人で、それぞれ最も多くなっている。

図3 年齢階級、男女別昼夜間人口比率

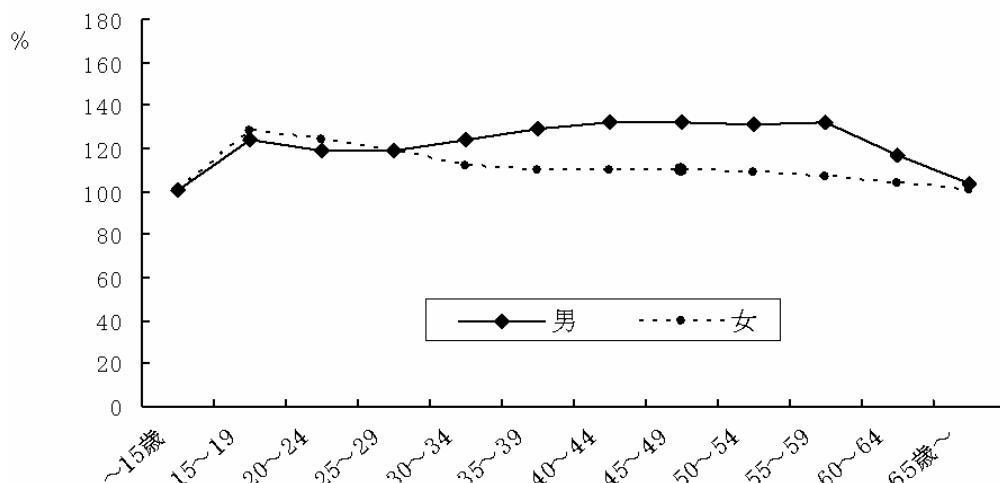


表3 年齢階級、男女別昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率

年 齢 (5歳階級)	男				女			
	常住地による人口 (夜間人口)	流入超過人口	従業地・通学地による人口 (昼間人口)	昼夜間人口比率 (%)	常住地による人口 (夜間人口)	流入超過人口	従業地・通学地による人口 (昼間人口)	昼夜間人口比率 (%)
総 数	644,560	124,987	769,547	119.4	692,102	69,525	761,627	110.0
～15歳	97,545	305	97,850	100.3	93,547	736	94,283	100.8
15～19	47,729	11,682	59,411	124.5	44,721	12,738	57,459	128.5
20～24	67,817	12,890	80,707	119.0	62,907	15,411	78,318	124.5
25～29	60,595	11,641	72,236	119.2	63,816	11,951	75,767	118.7
30～34	49,995	11,991	61,986	124.0	53,618	6,503	60,121	112.1
35～39	43,843	12,705	56,548	129.0	46,212	4,346	50,558	109.4
40～44	41,174	13,441	54,615	132.6	43,196	4,171	47,367	109.7
45～49	46,053	14,995	61,048	132.6	47,726	4,649	52,375	109.7
50～54	50,580	15,728	66,308	131.1	53,112	4,491	57,603	108.5
55～59	36,888	11,729	48,617	131.8	40,999	2,697	43,696	106.6
60～64	30,571	5,041	35,612	116.5	36,247	1,215	37,462	103.4
65歳～	71,770	2,839	74,609	104.0	106,001	617	106,618	100.6

注) 常住地による人口(夜間人口)、従業地・通学地による人口(昼間人口)には、年齢不詳の人口を含まない

(4) 13大都市

本市の昼間人口は8番目、増加数・増加率は横浜市に次いで第2位

13大都市の昼夜間人口比率を比較すると、大阪市が141.2で最も高く、次いで東京都区部が137.5、名古屋市が117.0と続き、本市は114.6で第4位となっている。

昼間人口が夜間人口を上回っているのは10都市で、川崎市など3市では下回っている。昼夜間人口比率を前回と比べると、大阪市で5.3ポイント低下、東京都区部で3.5ポイント低下をはじめ11都市で低下している。

昼間人口は、東京都区部が11,125,135人で最も多く、以下大阪市3,664,414人、横浜市3,091,166人の順で、本市は8番目となっている。前回から比べると、増減数、増減率とも最も多いのは、横浜市で127,294人、4.3%の増加となっている。本市は第2位で52,088人、3.5%増加。増加した都市は8都市で、大阪市(138,789人、3.6%減少)など5都市では減少した。

流入超過人口は、東京都区部が3,032,867人でトップ。以下、大阪市1,069,020人、名古屋市365,600人と続き、本市は194,512人で4番目となっている。

表4 13大都市の昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率

都 市	常住地による人口 (夜間人口)		流入超過人口		従業地・通学地による 人口(昼間人口)		昼夜間人口比率(%)		7～12年の 昼間人口の増減	
	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	平成7年	平成12年	増減数	増減率(%)
福岡市	1,280,405	1,336,662	198,681	194,512	1,479,086	1,531,174	115.5	114.6	52,088	3.5
札幌市	1,752,149	1,797,479	34,740	23,278	1,786,889	1,820,757	102.0	101.3	33,868	1.9
仙台市	969,971	1,007,628	89,922	82,534	1,059,893	1,090,162	109.3	108.2	30,269	2.9
千葉市	856,593	883,008	-26,254	-24,306	830,339	858,702	96.9	97.2	28,363	3.4
東京都区部	7,935,211	8,092,268	3,256,134	3,032,867	11,191,345	11,125,135	141.0	137.5	-66,210	-0.6
川崎市	1,201,881	1,249,029	-134,577	-151,939	1,067,304	1,097,090	88.8	87.8	29,786	2.8
横浜市	3,303,708	3,414,860	-339,836	-323,694	2,963,872	3,091,166	89.7	90.5	127,294	4.3
名古屋市	2,144,334	2,148,949	399,147	365,600	2,543,481	2,514,549	118.6	117.0	-28,932	-1.1
京都市	1,454,286	1,454,368	147,206	130,258	1,601,492	1,584,626	110.1	109.0	-16,866	-1.1
大阪市	2,596,486	2,595,394	1,206,717	1,069,020	3,803,203	3,664,414	146.5	141.2	-138,789	-3.6
神戸市	1,422,563	1,492,143	71,134	44,573	1,493,697	1,536,716	105.0	103.0	43,019	2.9
広島市	1,106,763	1,124,765	44,551	38,640	1,151,314	1,163,405	104.0	103.4	12,091	1.1
北九州市	1,018,897	1,010,127	40,030	34,839	1,058,927	1,044,966	103.9	103.4	-13,961	-1.3

注) 常住地による人口(夜間人口)、従業地・通学地による人口(昼間人口)には、年齢不詳の人口を含まない。

## 2 通勤・通学人口

### (1) 本市を従業地・通学地とする人口

市外からの通勤・通学者は263,855人、27.8%占める

本市を従業地・通学地とする就業者及び通学者は1,058,056人で、内訳は就業者が804,654人、通学者が15歳以上 145,401人、15歳未満 108,001人となっている。前回(1,070,063人)と比べ、通学者の減少により、総数で12,007人、1.1%減少している。

このうち、15歳以上就業者及び通学者950,055人を、居住先別にみると、本市内に居住が686,200人(構成比72.2%)、市外からの通勤・通学者が263,855人(同27.8%)となっている。

市外からの通勤・通学者は263,855人の内訳は通勤者218,780人、通学者45,075人で、地域別では、県内他市町村からが245,320人、県外からが18,535人で、県内が9割以上となっている。県内のうち、186,507人が福岡都市圏の市町村からで、上位から春日市26,379人、大野城市20,598人、前原市17,309人、筑紫野市16,506人、太宰府市13,556人の順となっている。

表5 本市を従業地・通学地とする人口(昼間人口)の従業・通学状況

年次、年齢、 就業・通学	従業地・通 学地による 人口 (昼間人口)	福岡市に常住				福岡市外に常住		
		従業も 通学も していない	自宅で 従業	自宅外の 自区内で 従業・通学	自市内の 他区で従 業・通学	総数	県内他市 町村から	県外から
平成7年	1,479,086	392,078	48,780	432,995	321,761	266,527	247,936	18,591
平成12年	1,531,174	416,693	51,908	430,726	310,266	265,156	246,569	18,587
構成比 (%)	100.0	27.2	3.4	28.1	20.3	17.3	16.1	1.2
15歳未満	192,133	84,132	—	103,247	3,453	1,301	1,249	52
15歳以上	1,339,041	332,561	51,908	327,479	306,813	263,855	245,320	18,535
15歳以上就業者・通学者	950,055	—	51,908	327,479	306,813	263,855	245,320	18,535
就業者	804,654	—	51,908	265,555	268,411	218,780	204,027	14,753
通学者	145,401	—	—	61,924	38,402	45,075	41,293	3,782
(別掲)15歳未満通学者	108,001	—	—	103,247	3,453	1,301	1,249	52

注) 従業地・通学地による人口(昼間人口)には、労働力状態不詳の人口を含むが、年齢不詳の人口は含まない。

### (2) 本市に常住する人の通勤・通学人口

15歳以上就業・通学者のうち、9.3%が市外へ通勤・通学

本市に常住する就業者及び通学者は863,544人で、このうち就業者は645,887人、通学者は15歳以上 110,697人、15歳未満 106,960人となっている。前回(871,382人)と比べ、通学者の減少により、総数で7,838人、0.9%減少している。

15歳以上就業者及び通学者756,584人を、従業・通学地別にみると、「自宅外の自区内で」が327,479人(構成比43.3%)で最も多く、「自市内の他区で」が306,813人(同40.6%)、「市外で」が70,384人(同9.3%)、「自宅で従業」が51,908人(同6.9%)と続いている。

市外への通勤・通学者70,384人の内訳は、通勤者53,534人、通学者9,710人となっている。地域別では、県内他市町村が63,244人、県外が7,140人で、県内が9割弱となっている。県内のうち、51,763人が福岡都市圏の市町村で、上位から大野城市5,832人、春日市5,236人、粕屋町5,164人、新宮町4,812人の順。福岡都市圏の中では粕屋地域、糸島地域への通勤・通学者が増加している。

表6 本市を常住地とする人口(夜間人口)の従業・通学状況

年次、年齢、 就業・通学	常住地による人口 (夜間人口)	従業も通学 もしていない	市内で従業・通学			市外で従業・通学		
			自宅で 従業	自宅外の 自区内で	自市内の 他区で	総数	県内他市 町村で	他県で
平成7年	1,280,405	392,078	48,780	432,995	321,761	67,846	61,674	6,172
平成12年	1,336,662	416,693	51,908	430,726	310,266	70,644	63,460	7,184
構成比 (%)	100.0	31.2	3.9	32.2	23.2	5.3	4.7	0.5
15歳未満	191,092	84,132	—	103,247	3,453	260	216	44
15歳以上	1,145,570	332,561	51,908	327,479	306,813	70,384	63,244	7,140
15歳以上就業者・通学者	756,584	—	51,908	327,479	306,813	70,384	63,244	7,140
就業者	645,887	—	51,908	265,555	268,411	60,013	53,534	6,479
通学者	110,697	—	—	61,924	38,402	10,371	9,710	661
(別掲)15歳未満通学者	106,960	—	—	103,247	3,453	260	216	44

注) 常住地による人口(夜間人口)には、労働力状態不詳の人口を含むが、年齢不詳の人口は含まない。

表7 地域別流入、流出口(15歳以上通勤者・通学者)の推移

地域 市町村	流入人口(市外からの通勤・通学者)				流出人口(市外への通勤・通学者)				流入人口		流出人口	
	平成7年		平成12年		平成7年		平成12年		7~12年増減		7~12年増減	
	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	数	率	数	率		
	%		%		%		%		%		%	
合計	265,024	100.0	263,855	100.0	67,533	100.0	70,384	100.0	-1,169	-0.4	2,851	4.2
県内	246,487	93.0	245,320	93.0	61,407	90.9	63,244	89.9	-1,167	-0.5	1,837	3.0
福岡都市圏	183,996	69.4	186,507	70.7	50,578	74.9	51,763	73.5	2,511	1.4	1,185	2.3
筑紫地域	89,757	33.9	88,609	33.6	22,456	33.3	21,885	31.1	-1,148	-1.3	-571	-2.5
筑紫野市	16,104	6.1	16,506	6.3	3,726	5.5	3,419	4.9	402	2.5	-307	-8.2
春日市	27,142	10.2	26,379	10.0	4,792	7.1	5,236	7.4	-763	-2.8	444	9.3
大野城市	20,834	7.9	20,598	7.8	5,914	8.8	5,832	8.3	-236	-1.1	-82	-1.4
太宰府市	14,707	5.5	13,556	5.1	4,791	7.1	4,089	5.8	-1,151	-7.8	-702	-14.7
那珂川町	10,970	4.1	11,570	4.4	3,233	4.8	3,309	4.7	600	5.5	76	2.4
粕屋地域	50,244	19.0	52,935	20.1	21,635	32.0	23,025	32.7	2,691	5.4	1,390	6.4
古賀市	9,295	3.5	9,664	3.7	3,348	5.0	3,693	5.2	369	4.0	345	10.3
宇美町	6,807	2.6	7,037	2.7	1,991	2.9	2,014	2.9	230	3.4	23	1.2
篠栗町	5,716	2.2	6,251	2.4	1,230	1.8	1,233	1.8	535	9.4	3	0.2
志免町	9,284	3.5	9,370	3.6	3,094	4.6	3,184	4.5	86	0.9	90	2.9
須恵町	4,878	1.8	4,933	1.9	1,651	2.4	1,558	2.2	55	1.1	-93	-5.6
新宮町	4,928	1.9	5,672	2.1	4,517	6.7	4,812	6.8	744	15.1	295	6.5
久山町	1,622	0.6	1,654	0.6	969	1.4	1,367	1.9	32	2.0	398	41.1
粕屋町	7,714	2.9	8,354	3.2	4,835	7.2	5,164	7.3	640	8.3	329	6.8
宗像地域	21,808	8.2	21,178	8.0	2,656	3.9	2,566	3.6	-630	-2.9	-90	-3.4
宗像市	11,165	4.2	10,859	4.1	1,319	2.0	1,470	2.1	-306	-2.7	151	11.4
福岡町	7,776	2.9	7,465	2.8	1,045	1.5	787	1.1	-311	-4.0	-258	-24.7
津屋崎町	2,125	0.8	2,019	0.8	230	0.3	232	0.3	-106	-5.0	2	0.9
玄海町	732	0.3	819	0.3	62	0.1	70	0.1	87	11.9	8	12.9
大島村	10	0.0	16	0.0	—	—	7	—	6	60.0	7	—
糸島地域	22,187	8.4	23,785	9.0	3,831	5.7	4,287	6.1	1,598	7.2	456	11.9
前原市	15,873	6.0	17,309	6.6	3,153	4.7	3,359	4.8	1,436	9.0	206	6.5
二丈町	2,845	1.1	3,013	1.1	210	0.3	317	0.5	168	5.9	107	51.0
志摩町	3,469	1.3	3,463	1.3	468	0.7	611	0.9	-6	-0.2	143	30.6
県内他市町村	62,491	23.6	58,813	22.3	10,829	16.0	11,481	16.3	-3,678	-5.9	652	6.0
北九州市	11,632	4.4	10,879	4.1	4,010	5.9	4,157	5.9	-753	-6.5	147	3.7
久留米市	9,880	3.7	9,290	3.5	2,712	4.0	2,840	4.0	-590	-6.0	128	4.7
小郡市	6,734	2.5	6,468	2.5	514	0.8	516	0.7	-266	-4.0	2	0.4
他市町村	34,245	12.9	32,176	12.2	3,593	5.3	3,968	5.6	-2,069	-6.0	375	10.4
県外	18,537	7.0	18,535	7.0	6,126	9.1	7,140	10.1	-2	0.0	1,014	16.6

注) 15歳未満の通学者は含まない。

### 3 利用交通手段

#### 自転車だけの通勤・通学者が、10年間で約5割増加

本市に常住する15歳以上の自宅外通勤・通学者704,676人を利用交通手段別にみると、自家用車だけの利用者が197,511人(構成比28.0%)で最も多く、次いで自転車だけの利用者が118,482人(同16.8%)、乗合バスだけの利用者が81,090人(同11.5%)、鉄道・電車だけの利用者が78,441人(同11.1%)、徒歩だけの利用者が69,320人(同9.8%)などとなっている。

これを10年前の平成2年と比べると、自転車だけの利用者が49.2%増加し、構成比で4.5ポイント上昇、自家用車だけの利用者が0.6ポイント上昇したのに対し、乗合バスだけの割合は4.5ポイント低下、徒歩だけの利用者は3.7ポイント低下している。

本市で従業・通学している15歳以上の自宅外通勤・通学者898,147人を利用交通手段別にみると、自家用車だけの利用者が242,082人(構成比27.0%)で最も多く、次いで鉄道・電車だけの利用者が137,908人(同15.4%)、自転車だけの利用者が121,655人(同13.5%)、乗合バスだけの利用者が87,432人(同9.7%)などとなっている。鉄道・電車だけの利用者が、他市町村から本市への通勤・通学者の利用が多いことを反映し、本市常住者に比べかなり多くなっている。

これを10年前の平成2年と比べると、自転車だけの割合が3.5ポイント上昇したのに対し、乗合バスだけの割合は4.0ポイント低下、徒歩だけの割合は2.9ポイント低下している。

表8 利用交通手段別15歳以上通勤者・通学者

利用交通手段	本市に常住する15歳以上の 自宅外通勤・通学者					本市で従業・通学の15歳以上の 自宅外通勤・通学者				
	通勤・通学者数		構成比 (%)		2~12年 増減率 (%)	通勤・通学者数		構成比 (%)		2~12年 増減率 (%)
	平成2年	平成12年	平成2年	平成12年		平成2年	平成12年	平成2年	平成12年	
総 数	643,473	704,676	100.0	100.0	9.5	822,004	898,147	100.0	100.0	9.3
利用交通手段1種類	571,722	596,960	88.8	84.7	4.4	686,738	718,077	83.5	80.0	4.6
徒歩だけ	86,756	69,320	13.5	9.8	-20.1	87,297	69,493	10.6	7.7	-20.4
鉄道・電車	71,898	78,441	11.2	11.1	9.1	121,972	137,908	14.8	15.4	13.1
乗合バス	103,173	81,090	16.0	11.5	-21.4	112,744	87,432	13.7	9.7	-22.5
勤め先・学校のバス	2,719	1,999	0.4	0.3	-26.5	3,364	2,180	0.4	0.2	-35.2
自家用車	176,010	197,511	27.4	28.0	12.2	221,848	242,082	27.0	27.0	9.1
ハイヤー・タクシー	3,789	2,301	0.6	0.3	-39.3	3,897	2,406	0.5	0.3	-38.3
オートバイ	39,806	36,769	6.2	5.2	-7.6	44,599	41,724	5.4	4.6	-6.4
自転車	79,399	118,482	12.3	16.8	49.2	81,790	121,655	10.0	13.5	48.7
その他	8,172	11,047	1.3	1.6	35.2	9,227	13,197	1.1	1.5	43.0
利用交通手段2種類	62,205	82,034	9.7	11.6	31.9	113,253	145,410	13.8	16.2	28.4
鉄道・電車と乗合バス	26,459	31,405	4.1	4.5	18.7	50,998	58,576	6.2	6.5	14.9
鉄道・電車と勤め先・学校のバス	341	604	0.1	0.1	77.1	415	615	0.1	0.1	48.2
鉄道・電車と自家用車	2,762	3,578	0.4	0.5	29.5	13,616	19,184	1.7	2.1	40.9
鉄道・電車とオートバイ・自転車	14,498	20,018	2.3	2.8	38.1	27,205	37,422	3.3	4.2	37.6
その他	18,145	26,429	2.8	3.8	45.7	21,019	29,613	2.6	3.3	40.9
利用交通手段3種類以上	8,690	9,543	1.4	1.4	9.8	21,287	18,031	2.6	2.0	-15.3

注) 総数には、利用交通手段「不詳」を含む。